



謹んで 新春の御祝詞を 申上げます



病院長 池田 正寿

■新年明けましておめでとうございます。皆さまお揃いでお健やかに過ごしの事とお慶び申し上げます。歳の初めのご挨拶は緊張感を伴うものですが、改まれば改まるほど思考が停止するのでいつものようにまとまりのない話になることをお許し下さい。



■さて、今年…平成 28 年 5 月 15 日は当院が産声をあげて 25 年目の記念日になります。地方での医療崩壊が今も話題になりますが、金沢市近郊の医療資源は豊富です。その中で四半世紀生き残ってくることができたのは僥倖と言わねばならないかもしれません。当院を選んでいただいた患者さま、地域の医療機関の皆さまに厚く御礼申し上げます。

■昨今は、テクノロジーの進歩により消滅するかもしれない職業の話が取り沙汰されることがあります。医療業界は大丈夫でしょうか…？

昔は病気について知りたければ「家庭の医学」などの書籍に頼るしかありませんでした。ただ、一冊に全科の疾患を網羅していたため、一つの疾患に対する記載は限られた内容に留まっていた。現在は…と言うと、ネットを開けばより詳細な病気の情報が簡単に手に入るようになりました。今後もっと検索システムが進歩を続け、症状から診断に至るまでの精度がさらに高くなるのではないかと想像します。診断に留まらず、アンドロイドが進歩すると看護・介護の分野も省力化が図られるでしょう。治療の領域ではヒトの手を借りずに完了できる技術の出現は当分無理でしょうが、自動車の自動運転の完成が間近と聞いていますので数年後には SF 映画の中だけだった治療器具が実際に出現しているかもしれません。総じて、病院内の風景は様変わりするかもしれませんが、この業界からヒトの姿が消えることは、当分ないのではないかと…と思います。



■話は変わりますが、高齢化社会が進んだことで社会保障費の支出が高額になり国の財政を圧迫していることも昨今の話題です。人工知能・アンドロイド・ロボット医療器具の進歩は望ましい点も多いのですが、その導入には莫大な費用が必要で病院経営を圧迫するお荷物になり続けます。正月早々お金の話もなんですが、最新の医療環境を整備しようとする単純に億単位の資金が必要になります。その投資が回収できる前に更なる新技術が出現するためほとんどの病院は一般企業で言うところの「資金の内部留保」なんて不可能なのが現実です。より進んだ医療を提供したいが、ない袖は振れない…こんなジレンマに巷の医療者は困惑しています。完全自律型の人工知能が出現し、素材さえ与えれば 3D プリンターを用いて安価に製造できるようになる時が来れば導入のコストも下がるのかもしれませんが……



■医療の進歩は様々な福音を与えてくれましたが代わりに高コストのツケを残しました。今春には医療費の改定がなされますが、現状ではマイナス改定は避けられない…と言われています。病院経営はますます苦しくなります。マイナス改定には限界があるので、その次に来るのは間違いなく患者さまの自己負担割合のアップです。私は国家や政府が無策である…とは思っておりません。進歩には必ず代償が伴うものであり（残念ではありますが）コスト増は当然の流れではないかと考えます。当院でも最大限努力して患者さまの負担を少なくする医療の提供をめざし続けませんが、皆さまにおかれましても自ら病気を招かぬように日々ご自愛いただきたい…と強く願う次第です。

- 1) 悪い生活習慣は改める、
- 2) 安易な民間療法には頼らない、
- 3) 病気の芽は早めに対処して重症化させないことが肝要だと思います。

■今年も皆さまにとって良き一年であることをお祈りして年頭の挨拶を終えさせていただきます。



平成27年 秋の叙勲 飯田 泰治 (放射線部)

私は少年時代に祖母の病氣・介護を見て医療の道に進み、診療放射線技師として42年の期間、医療に欠くことのできない診療放射線業務を業としてきました。そのうち20年間は心臓カテーテル検査などの血管造影業務を担当してきました。血管造影部門ではX線透視を用いて血管の中に細いカテーテルという細い管を入れ、心筋梗塞・狭心症の治療や大動脈瘤に対するステントグラフト挿入術などの治療を行っています。この分野では患者様だけでなく医師、メディカルスタッフは長時間に渡り放射線に曝されるため、常に放射線被ばくが大きな問題となっています。私は放射線防護・計測に関する研究を通して、患者様の被ばく線量の低減を図り、放射線皮膚障害の発生の回避に努力すると同時に、スタッフの職業被ばくの低減と放射線防護の指導・啓蒙に努めてきました。

この度、図らずも平成27年度秋の叙勲で保健衛生功勞により瑞宝双光章の受章の栄に浴することが出来ました。9月下旬、金沢大学から叙勲瑞宝双光章受章内定の知らせを頂き、10月27日に内閣閣議決定が下され正式に決定し、11月3日に新聞で発表されました。早速、親戚・知人から電話やメールなどで次々と祝意を頂きました。皆様方の支えがあって長年職務を遂行することができたものだと、改めて感謝の気持ちで一杯になりました。

伝達式は11月10日に東京国立劇場にて行われ、各勲章の代表者へ馳 浩文部科学大臣から勲章と勲記が伝達されました。伝達式にはプロゴルフ選手の青木 功さん、俳優の北大路 欣也さんなど709名の方が出席されました。伝達式に引き続き、受章者と配偶者は34台のバスで皇居内へ向かい、通常一般国民が入ることの出来ない皇居宮殿へ案内されました。拝謁は春秋の間と豊明殿に分かれて行われましたが、私たちは春秋の間で天皇陛下と拝謁しました。拝謁が終わると南溜でバス一台ごとの記念写真を撮ってバスに乗車し御下賜の御品として、ろう焼き(菊焼残月)3個と皇室アルバムをいただき、文部科学省前で解散しました。伝達式からの一連の行事における文部科学省の職員のおもてなし



に感激しました。

拝謁では私の目の前の引き戸が開き、侍従、天皇、侍従長の順で天皇陛下が会場にお見えになり、中央壇上に天皇が御立ちになったとき一同礼をし、代表が感謝の辞を述べました。すぐ後に天皇陛下から「このたびは叙勲おめでとう。皆さんはそれぞれの道で国のため、社会のため、人びとのために努力されたことに対し、感謝します。これから皆さんは体に気をつけ、それぞれの道で精進ください。」という有難いお言葉を賜りました。

天皇陛下はお言葉の後、受章者の方々の前をゆっくりお歩きになり、その後、配偶者と受章者の間をゆっくりとお顔を合わせながら歩いていかれました。杖をついていたたり、足が悪く、車椅子で来られた方には「だいじょうぶですか？お体大切にしてくださいね・・・」等お言葉をかけられました。私は偶然にも列の最後尾であったおかげで、天皇陛下が私の周りをゆっくりと通られたのでお顔を拝することができました。歩き方にも気品があり、すっぽりと自然の懐に抱かれているような安らいだ気持ちになりました。

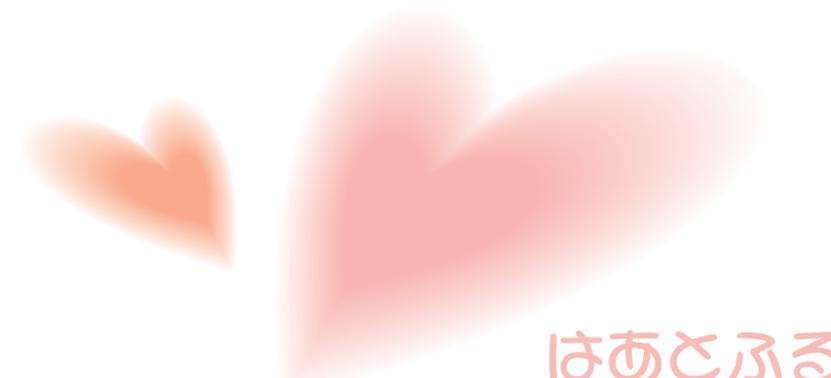
天皇陛下のお姿より、人に明るい笑顔向けられると、それだけで人は暖かさを感じ、人はリラックスして心に余裕が生じ、不安・不満を乗り越え、前向きな気持ちになります。また、職員同士が明るく元気な挨拶を交わし、明るくコミュニケーションを図ることは患者様の目で見ても気持ちがなごみます。そこから、患者様は暖かさ、安心感を得ることができ、病院に対する信頼感にも繋がってくるものと、人間として医療人としての心構えをお教えたように感じました。今回の経験を忘れず、率先して「明るい笑顔と元気な挨拶」を実践していきたいと感じました。

色々な苦労もありましたが、いつも先輩後輩同僚をはじめ色々な人に助けられ楽しく仕事ことができました。今後は叙勲の榮譽に恥じる事のないよう安心・安全な放射線診療と人々の健康福祉の推進に些やかなりとも努力していきたいと思えます。

■病院長 新年挨拶

■平成27年秋の叙勲 飯田 泰治 (放射線部)

■地域医療相談室 ☎076-253-2220 (直通)



はあとふる



浅ノ川病院グループ 心臓血管センター金沢循環器病院

www.kanazawa-heart.or.jp

new year 2016

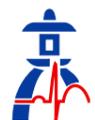


■病院理念■

高度な循環器専門医療から高齢者慢性期医療にいたるまで「患者さま」に寄り添った医療を提供します。

■基本方針■

1. 優れたスタッフを充実させ24時間フル体制で先進医療を提供します。
2. 患者さまが安心と満足の得られる十分な説明と同意に基づいた治療をおこないます。
3. 病診連携を密にして地域のみなさまの健康と幸せな暮らしを守る病院を目指します。



浅ノ川病院グループ 金沢循環器病院
心臓血管センター
〒920-0007 石川県金沢市田中町は16
TEL076-253-8000 FAX076-253-0008
<http://www.kanazawa-heart.or.jp>
info@kanazawa-heart.or.jp
編集 / 広報委員会 TEL076-253-8000
はあとふる Vol.44 発行日 2016年1月20日